

常盤塾議事録（3月）

日時：2017年3月11日（土） 10:00～13:00

場所：新国際ビル MBF ハウス

文責：常盤塾ライター 鈴木雅也 秋元裕太

メンバー：常盤先生、片平先生、松永さん、古城さん、大下さん、丸山さん、松山さん、出井さん、古川さん、安梅さん、臼井さん、松崎さん

アジェンダ：

- 1、 一分間スピーチ
- 2、 常盤先生のお話
- 3、 「発酵は錬金術である（2、3章）」発表：臼井さん

(1) 一分間スピーチ

- ・ 大下さん
丸の内は水害が起きたら大きい被害が出る。
横浜では海拔 1M を示しているが、東京ではしていない。
安全なのは国会議事堂、六本木、新宿。
- ・ 松崎さん
最近 CM を作って感じたこと
働き方改革で残業が減っても、1日で終わるはずの仕事が2日に跨ると物理的なコストが上がってしまう。＝労務費以外のところでコストがかかってしまう。
- ・ 丸山さん
中日の大井監督はデータ重視、権藤監督は感性重視。
どちらにせよ独自の采配ができるのは執念、凄みがあるから。
経営も、経営者の覚悟や執念が大事なのは。
- ・ 松永さん

ポジティブコンピューティングの翻訳人たちが無意識の感覚を管理する試みをしている。

人は「バーン！」とか無意識に訴えることの方が頭に入りやすい。

ネットワークも量から質へと変化している。

- ・ 安梅さん

中国・韓国の留学生が結婚、式に参加した。

それぞれ民族衣装を着る、親に挨拶に行くなど様式が同じ。

漢字もみんな伝わり感動した。

中国の幼稚園の庭が戦場（戦車のおもちゃがあるなど）になっていた。

そうすると国から補助金が出るらしい。

- ・ 古川さん

未来は予想できないため、様々なシナリオを作っておくべき。そのためには自分たちの知らないことを注意深く見ていく必要がある。

例えばお酒は地域によって特色がある。もっと地域性、質などのデータを見ていくべきである。

- ・ 古城さん

サピエンス全史について

テクノロジーについて、こんな見方があるのかと思う。

日本書紀や古事記を見ていると、1600年代の遣隋使によって中国の影響を受けていることがわかる。

- ・ 出井さん

微生物学教室のかつての先生曰く、「細胞は国家である」

一つの細胞は外交（侵略や防御も）する。

複数の中でコミュニケーションをするものが国家？

生物学は同じ生物でも個体差を考えるとという点が特徴。

- ・ 松山さん

軽井沢へ行き、梶川敦子さんに会ってきた。

もともとクリスチャンだが易経を勉強している。

共通する教えは祈りと愛、謙遜と感謝

易経の教えは日本に浸透している。

著書「生きるヒント 易経」

- ・ 臼井さん

日本には 3157 の温泉がある。(中国 3000、アイスランド 280、イタリア 200)

日本人は長期的に考えられるポテンシャルがあるのに短期的な目線しかない。自分たちがどう生きているか、何を食べているのか、感謝に立ち返らないと間違った世界にいてしまうのでは。

- ・ 片平先生

花粉症になった。

トヨタの副社長河合満氏は現場からの叩き上げ

溶接のロボットはダメな人が教えるとダメになる。

どんどんロボット化が進むとロボットに指導する人間がいなくなってしまう。このためトヨタはわざと手作業を導入している。

今後、人と機械の対話が必要になってくる。＝インタラクションの研究が強くなる。

最近の論文は、生物学の知識が必要になってきている。

(2) 常盤先生のお話

結論から言う文章＝ズームアウト。アメリカなど

日本は逆、ズームイン。

新聞は必ずズームアウト。

住所や手紙、名前など日本語と英語では全て逆。

同時通訳は言葉の後を追っているのではなく、文脈を自分なりに読み取っているので、機械に置き換わるのは難しい。

金子みすゞ「はちと神様」：小さいはちから大きいものへ注目し、最後に神様ははちの中にある、と終わる。

「私の履歴書」の大橋氏「リーダーは率いるだけでなく、率いられる人々に、自分がいなければと思わせるような人間」
会社でも同様で、会社の優劣は社員、企業の文化で決まる。
例：ゴーンが再建したのではなく、日産の持つ集団の力。

ベーコンの言葉、自然に従って初めて自然に勝てる。(柔道に近い)
自然を変えよう、支配しようという考えが矛盾を生む。

我輩は猫であるのバイオリンの話＝結論がなかなか出てこない。
コンテキストを共有している・していないで取るべきコミュニケーションが異なる。
それはローコンテキストとハイコンテキストの枠を緩めたり締めたりする
ということだが、日本人は得意（イギリス人も？）＝婉曲など
スマートフォンは、結論だけを抽出する。
暗黙知を共有していない人たちがコミュニケーションをとるには、結論から
言うしかない？
異なる背景を持った人たちは、それぞれ異なる受け取り方をする。

トヨタがレースに出場する理由は勝つためではなく、製品の品質を高め、トラブルを発見する力を養うため。

(3) 「発酵は錬金術である」2・3章 発表 臼井さん

すしさいとうの動画。

<https://www.youtube.com/watch?v=JkeRhKnROds> (動画のリンクです)

国家プロジェクトで発酵をやるべき？

日本酒の美味しさを伝える言葉がないから世界的にはやらない？

色の言葉はたくさんあるし、形容詞は豊かなはず（虹の色とか）

「ものづくりの理想郷」 山本典正

ベンチャー企業を経験し、地元の酒造を継ぐ。

今までとは異なる経営方針。

サントリーはウイスキーを作るための樽を作るために梅酒を作っている。

ものづくりは、消費する人のレベルが上がらないと、真面目にいいものを作っている人が報われない（アメリカのチーズとか）

外食が多くなったことが原因。

「売る」論理が議論されるが、「買う」論理と一緒にしなければならない。

サステイナブルであるか：鯉節はなくなりつつある。

即席味噌汁の球体

形が悪い野菜も練り込める。

- ・ 次回は古城さんが「サピエンス全史」の予告編、図書委員から輪読の提案、輪読図書の決定。
- ・ 5月は常盤先生の「楢岡思考で考える経営の哲学」のディスカッション
- ・ 次回はオフィスの関係で4月22日の10:00~13:00